



六中だより

文京区立第六中学校
校長 不破 裕子

【教育目標】○責任を重んじる ○学習に励む ○健康なからだをつくる ○美しい生活を求める

<http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dairoku-jh/>

平成 28 年度の終わりを迎えて

今日から 3 月、桜の開花はまだしばらく先になりそうですが、梅が可憐な花を咲かせる季節となりました。江戸時代の俳人服部嵐雪は、「梅一輪一輪ほどの暖かさ」という名句を残していますが、寒さの中にも春の訪れを実感する今日この頃です。

平成 29 年の幕開けとともに始まった 3 学期でしたが、瞬く間に時は流れ、いよいよ平成 28 年度最後の月、卒業・進級のときを迎えました。これまでの日々の中で、3 年生は自分の進路を見つめ、それぞれの歩みを進めてきました。その歩みはここで終わるものではなく、これからも続いていくものです。3 月 17 日に行われる第 68 回卒業証書授与式は、新たな道において力強く一步を踏み出すための節目の儀式となります。その足取りがより確かなものとなるように、全校で心を込めて応援したいと思います。良き旅立ちとなることを願ってやみません。

また、2 年生にとって、3 月は最上級生になるための最終準備を整える月です。1 年生も、新たに下級生を迎える心構えを自らに問いかける時期を迎えています。3 月の学校生活を通して、新年度に向けた準備をしっかりと行っていくことが、学校としての大きな目標となります。年度末は何かと気ぜわしい毎日になりますが、心を一つにして着実に進めていきたいと考えます。

さて、本校ではさる 2 月 6 日（月）に、第 41 回パナソニック教育財団特別研究指定校公開研究会を開催し、160 名ものご参加をいただきました。第一幼稚園、誠之小学校、向丘高校の先生方も多数ご参観くださり、校種を超えた交流をもつ好機ともなりました。保護者の皆様には授業参観や運営にご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。公開授業を参観された方々からは、「生徒たちの知識や興味・関心が高く、積極的、自発的に授業に参加していました」「グループ活動が活発で、自分の考えをしっかりと発言していました」「一人の生徒から意見が出ると、呼び水となっているいろいろな意見が出ることに感心しました」などの感想が寄せられ、六中生の学びへの意欲を感じ取っていただけたことが何より嬉しいことでした。

今回の研究は、言語活動の活性化を通して思考力や表現力を育むという目標に向けて取り組んだものでしたが、主体的に学ぶこと、自分の考えをもつこと、それを表現すること、そして互いに学び合うことでそれを広げたり深めたりすることは、これからの社会で生きていく生徒たちにとって大きな力になるものと考えています。もとより研究は途上であり、次年度は文京区教育研究協力校として実践を重ね、より良い授業を目指して研鑽に努めなければならない思いを新たにしております。今回の成果を糧に、第六中学校の未来に向けて更に前進していくことがこれからの課題でもあります。ご支援をいただいた多くの方々に改めて深謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年度も本校の教育活動に温かいご支援をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。1 年間、誠にありがとうございました。

3月の主な行事予定

日	曜	主な行事等
1	水	学年末考査3日目 親子ピザ作り
2	木	3年都立一般発表 ①～③ ⑤⑥1, 2年国際理解講座
3	金	①～⑤1, 2年領域診断テスト ⑥送る会合同練習 ②～④3年理科出前授業 PTA総会・常任委員会
4	土	
5	日	
6	月	生徒朝礼 安全指導 生徒委員会 3年特別時間割始
7	火	3年都立二次出願 避難訓練 ⑥送る会合同練習
8	水	③④3年アカデミー講座 職員会議
9	木	3年卒業遠足
10	金	⑤⑥三年生を送る会・感謝の会 学校運営連絡協議会
11	土	
12	日	
13	月	朝礼なし ①②3年救命救急講座 学年会
14	火	⑥2年 3年生と語る会
15	水	①②⑤カット 卒業式予行 職員会議
16	木	⑤⑥カット 卒業式準備
17	金	第68回卒業証書授与式
18	土	
19	日	
20	月	春分の日
21	火	
22	水	④カット 1, 2年生保護者会 14:00～
23	木	③④カット ⑤大掃除 学年会
24	金	修了式 学活 職員会議・教科部会
25	土	
26	日	春季休業日始(～4月5日まで)
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

※春季休業日は4月5日(水)まで、平成29年度の始業式は4月6日(木)で通常通りの登校時間となります。

3. 11を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、その日を被災地で体験した子どもたちが震災直後に書いた作文を集めた『つなみ』には、そのときの状況が子どもたちの目線で描かれており、今も読む者の心に強い衝撃を与えます。

「いっしゅんにして、多くの物と命をのみこんだ。ぼくの家も学校も町も。近所の、とてもぼくをかわいがってくれた、おじいちゃんおばあちゃん達の命も。水もでなくて、体育館の中に電気は二カ所だけ、着がえもなく、お風呂にも入れなかった。うれしいはずのテレビも、震災のことばかりで、あの日を思い出し、こわくて見るができなかった。」

1ヶ月たった。このころになると、店も開店して、買い物もできるようになった。今何がほしいのか？前は、ほしい物がたくさんあったのに、今はなにがほしいのか、わからないぼくがいた。」

迅速な避難行動で「釜石の奇跡」と呼ばれた市立鶴住居小学校の4年生が書いた作文の一部です。

「奇跡」は偶然起きたものではなく、平時に積み重ねた防災教育の賜であったことは、震災後の報道を通して、広く知られるところとなりました。

去年は熊本で大きな地震が発生しており、一人一人に高い防災意識が求められています。六中では、1年生が2学期に防災標語の作成に取り組みました。その中のひとつが東京都の表彰を受け、1階生徒玄関に幟となって掲げられています。

「危機感が 減災効果の 特効薬」

11日には、震災で失われた尊い命に衷心より哀悼の意を表するとともに、危機感を忘れることなく、防災に努めることを改めて誓いたいと思います。

親子ふれあい事業で花を植え替えました

さる2月15日(水)、PTA親子ふれあい事業と生徒会美化プロジェクトの共催で「花の植え替え」を行いました。参加した生徒たちと保護者の方が協力してプランターに彩りよく花の苗を植え替え、最後にたっぷり水をあげて終了しました。植え替えに参加した生徒たちと主事さんの手で、門出の花道を飾る花々に思いを込めて、卒業式まで大切に世話をします。